

使徒 2:17、その前と後

2009 年 11 月 8 日 アシェル・イントレーター

最近のニュース

フランコップ

エジプトからシリアへ航行していた輸送船「フランコップ」から 3000 発のロケットや爆弾を含む 500 トン(!)もの武器弾薬がイスラエル海軍特殊部隊第 13 部隊によって没収されました。それらはヒズボラに届けられるものでした。武器はイランから発送され、通常の商品として偽装されていました。

武器はアシュドッドの港で外交官や報道機関の前で提示されました。この拿捕によって、ハマスとヒズボラのテロリストらはイランによって資金援助を受け、訓練を受けているというイスラエルの主張に疑問の余地はないことを証明しました。また彼らは西洋社会に対して嘘を言いすべての国際的な規制を無視してきました。イランとシリアの閣僚はすぐにコメントを発表し、武器の発送はなかったこと、そしてイスラエルがこのすべての出来事についてでっち上げたと言いました。

テイテル

ようやく、アリエル在住のメシニックジューの少年であるアミエル・オリッツを爆弾で負傷させたユダヤ人「テロリスト」が捕まりました。彼はヤコブ・テイテルといって、イスラエルに帰還したアメリカ人で右翼的、宗教的狂信者です。彼は若いパレスチナ人タクシードライバーの殺害を告白しました。彼はさらに同性愛者、イスラエル人警察官、そして大学教授への攻撃を行った容疑があります。

告訴の数が多いため、アミエル・オリッツに関する報道は減りましたが、他の告訴がアミエルに対する攻撃に関して正しい見方を示しました。アミエルは無実で攻撃は悪質であるということです。ある主なイスラエルの新聞は示唆に富む記事を載せました。それはオリッツ一家と殺されたパレスチナ人タクシードライバーの家族との話し合いについてでした。

ジョーク?

今週イスラエルで流行っているジョークです。

「アフマディネジャドが実際ユダヤ人だって聞いたかい」

「そんなの信じないね。」

「それだけじゃないんだ。カダフィもまたユダヤ人なんだ。」

「そんな馬鹿な。次に君が言うのは、ゴールドストーンがユダヤ人だってことだろう。」

注: カダフィはリビアの最高指導者。ゴールドストーンは事実ユダヤ人で、国連人権理事会第 12 回セッションで、ガザ紛争に対するイスラエルの人権侵害、戦争責任を追及する報告書を書いた判事。イランの大統領アフマディネジャドがユダヤ人ではないかとイギリスの報道機関が報道したことがベースとなっている冗談です。

使徒 2:17 その前と後

使徒 2:17 は驚くべき箇所であり、終わりの時に関する大変重要なものが含まれています。(これはヨエル 2:28 からの引用です。)

使徒 2:17-21

『神は言われる。終わりの日に、わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたがたの息子や娘は預言し、青年は幻を見、老人は夢を見る。その日、わたしのしもべにも、はしためにも、わたしの霊を注ぐ。すると、彼らは預言する。(中略)主の大いなる輝かしい日が来る前に、太陽はやみとなり、月は血に変わる。しかし、主の名を呼ぶ者は、みな救われる。』

ペンテコステの朝、聖霊の注ぎの直後にシメオン(ペテロ)は集まった群衆に向かってこの箇所を述べました。人々がその時経験したことは、ヨエルの預言の最初の成就であると。

彼がこの箇所を引用したのは聖霊の注ぎの直後であったと私は思います。彼らがこの箇所を聖霊の注ぎの**前**に深く思いめぐらしていたからです。起こった事を省みて説明するだけのためにこの箇所を引用したのではありません。彼らはそれが**起こるよう**に前もって引用してきたのです。

この箇所には世界のリバイバルの鍵が含まれています。それはイエシュアの初臨の直後に聖霊の油注ぎを生じさせた一部であったように、主の再臨の直前の聖霊の油注ぎを生じさせる一部となるのです。

イエシュアは復活された後 40 日間弟子たちを訪れ教えました(使徒 1:3)。主が教えられた箇所の一つは恐らくヨエル 2:28 であったことでしょう。聖霊の炎がシャヴオットの朝に注がれる前に(使徒 1:14、2:1)、120 人の弟子たちは一致して日々の祈りを行っていました。彼らが祈ってきた、熟考してきた、そして信仰によって宣言してきたみことばの箇所の一つはヨエルの預言であったに違いありません。

第一世紀においてこのみことばが成就する前に、聖霊が彼らを導いてこのみことばの重要性を啓示したように、聖霊は 21 世紀にこのみことばが成就する前に私たちを導いてその重要性を啓示して下さるでしょう。

2000 年前、イスラエルのこの小さな信仰共同体は、このみことばが彼らの時代に成就するだろうと信じていました。彼らは、全世界に影響を及ぼすために聖霊が彼らの上に注がれて、大いなる輝かしい主の日に至る、終わりの時の預言をもたらすその一部になるだろうと考えました。

私たちが同じようにできないものでしょうか。

事実、私たちはさらに大きなことを行うと信じるべきです。私たちは、彼らよりもっと再臨の時に近いのです。私たちは世界に影響を与えることや、彼らよりも教会にリバイバルを発火させる機会がより多いのです。私たちは彼らよりコミュニケーションのツールや聖書の学びを行う機会が多いのです。もし彼らにとって有効であったならば、それは私たちにとっても有効なのです。

使徒 2:17 は終わりの時の諸国のリバイバルに関する預言です。この箇所は説明以上のものです。それは、この出来事自身が具現化する可能性を持つ預言なのです。それは贖いを待つ約束なのです。イザヤ 53:5「主の打たれし傷によって、私たちは癒された」には肉体的な癒しについての啓示が含まれているように、ヨエル 2:28「わたしの霊をすべての人に注ぐ」には世界のリバイバルに関する啓示が含まれているのです。

欠けているのは、それを信じ、熟考し、従い、それについて祈り、宣言し、預言する人々の集団です。私たちはそれを行いたいと思います。どうか一緒に加わって頂けないでしょうか。

【注：ヘブライ預言者として、ヨエルはこのリバイバルの預言を、神が約束されたイスラエルの未来としての文脈で見ました。ヨエル書の全体構造は以下のようになっています。1) 罪による国の崩壊、2) 祈り、断食と悔い改め、3) イスラエルの回復、4) 霊的なリバイバルの預言、5) 主の日の訪れ、6) イスラエルを攻撃した諸国に対する裁き、そして、7) 地上のパラダイスの回復です。預言として与えられたこの文脈は、これから成就する同じ文脈なのです。】